

【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：尾道市民の買物行動実態把握と商店街活性化策の検討	
研究代表者：地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース 教授 和田崇	連絡先：t-wada1969@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：なし	
【研究概要】 本研究は、①尾道市を取り巻く環境の変化とそれに付随して起こる市民の経済活動等の変化を明らかにするとともに、②尾道市における商業・サービス業の振興方策を検討することを目的とした。調査の結果、市町村合併や高速交通体系の変化に伴い、尾道市民の買物行動は買回品を中心に広域化していること、郊外チェーン店が尾道市民の日常的な買物場所として定着し、近隣商店街が急速に衰退する傾向が確認された。それらの近隣商店街は、基幹産業の縮小・衰退、住民の高齢化と減少、郊外チェーン店の立地、商店経営者の高齢化と後継者不足等により、経営環境の厳しさが増しており、空き店舗や空き家の増加、駐車場への用途転換が進行していた。	

【研究内容・成果】

1. 研究内容

本研究は、①市町村合併や高速交通体系の整備といった尾道市を取り巻く環境の変化とそれに付随して起こる市民の経済活動等の変化を明らかにするとともに、②尾道市因島地区の因島土生商店街を例に、尾道市における商業・サービス業の振興方策を検討、提案することを目的とした。これを達成するため、①については尾道市民を対象として買物行動の実態を把握するアンケート調査（配布数 2,000、回答数 705、回収率 35.3%）を、②については因島土生商店街を対象として土地利用調査（令和 4 年 10 月 25 日、本学学生 3 名協力）と商店経営者への聞き取り調査（令和 4 年 12 月 5 日、本学学生 5 名協力）、行政や経済団体、商店経営者等 8 名の参加を得た意見交換会（令和 5 年 3 月 7 日、本学学生 4 名協力）を実施した。

2. 研究成果

①については、尾道市民の買物行動の実態把握（市民アンケート調査）を通じて、市町村合併や高速交通体系の変化に伴い、尾道市民の買物行動は買回品を中心に広域化しており、特に周辺地区（御調、因島、瀬戸田）でその傾向が顕著であることが確認できた。また郊外チェーン店の出店が加速しており、それらが日常的な買物場所として定着し、観光商店街化する尾道本通り商店街としおまち商店街（瀬戸田）を除いて、近隣商店街が急速に衰退する傾向も確認された。以下、市民アンケート調査結果の詳細を示す。

尾道市民の品目別購入店舗をみると、生鮮食料品とその他食料品はスーパー、日用雑貨と医薬品、化粧品はドラッグストア、書籍・文具と衣料品、かばん・靴、家電製品は大型専門店で購入する者の割合が最も大きかった。化粧品と書籍・文具、衣料品、かばん・靴については通信販売を利用する者も比較的多かった。

次に品目別購入店舗所在地をみると、生鮮食料品とその他食料品、日用雑貨、医薬品といった最寄品は居住地区で、書籍・文具と衣料品、かばん・靴などの買回品は居住地区外または通信販売で購入する者の割合が大きかった。家電製品は大型専門店の立地する尾道地区と因島地区、福山市で購入する者が多かった。このことに関して、品目別購入店舗選択理由をみると、最寄品は「自宅近くにあり便利」であること、買回品は「品揃えがよい」ことが最も重視されており、またすべての品目について「駐車場がある」ことが重視されていた。

自宅の近くに商店街があると回答した者は 257 人（回答者全体の 36.9%）で、そのうちその商店街を週 1 回以上利用する者は 43 人（自宅の近くに商店街があると回答した者の 16.7%）、月 1 回以上週 1 回未満の頻度で利用する者は 46 人（同 17.9%）にとどまった。近

隣商店街を利用する理由は「自宅近くにある便利」が最も多く（回答者全体の66.3%）、「駐車場がある」（同22.9%）、「品揃えがよい」（同21.7%）などを大きく引き離れた。一方、商店街を利用しない理由としては、「駐車場がない・狭い」が最も多く（回答者全体の66.5%）、次いで「1か所で用事が済まない」（同47.7%）や「品揃えが悪い」（同36.1%）、「価格が高い」（同25.8%）などが比較的多く挙げられた。

②については、因島土生商店街は基幹産業の縮小・衰退、住民の高齢化と減少、郊外チェーン店の立地といった外部要因に加え、商店経営者の高齢化と後継者不足等の内部要因により、経営環境の厳しさがいっそう増しており、空き店舗や空き家の増加、駐車場への用途転換が進行する状況が明らかとなった。一方で、個性的な飲食店が立地していることに加え、移住者が宿泊施設や飲食店を開業するケースもみられ、今後は食を生かした魅力づくりや移住・起業の促進に向けた取組みを強化する必要性を確認できた。

写真1は平日昼間の因島土生商店街、写真2は同時間帯の郊外ショッピングモールの状況である。これらの写真からは、因島土生商店街はほとんど人通りがなく閑散としているのに対し、食品スーパーとドラッグストア、ホームセンターが出店する郊外ショッピングモールの駐車場は買物に来る者の自家用車で埋まっている状況がみてとれる。なお、郊外ショッピングモールの駐車場では愛媛ナンバーの車両を数台確認でき、郊外ショッピングモールは因島地区に加えて近隣島嶼部の住民が広域利用する商業施設となっていることが窺える。

図1は令和4年10月に実施した因島土生商店街の土地利用調査結果を示している。これを見ると、空き家や空きビル・空き店舗が多いことに加え、海沿いの大型駐車場の他に商店街内に小規模駐車場が多数点在していることがわかる。これらの多くは店舗や自宅を解体して駐車場に転用したものであり、近年増加する傾向にある。



写真1 因島土生商店街



写真2 郊外ショッピングモール



図1 因島土生商店街の土地利用図（令和4年10月）